

シルバー世代の独り言(生きる道) 「亀の恩返し」



総監・農業部門
松嶋 晃生
株式会社ワープス

1. 思いがけなく新たな職場へ就職

それは 2022 年の 3 月下旬でした。「ところで松嶋さん、うちの会社に力を貸していただけないか」と、ワープスの社長さんから切り出されました。

3 月末をもって前の会社を退職するので、友人・知人の方々に挨拶廻りを行っており、最後の訪問先としてワープスに来ておりました。突然の申し出に驚き、戸惑いながら「私はもう高齢ですし、無理ですよ」とお返事しましたが、それでも再度の依頼がありました。彼と私は、長年鳥取県技術士会の役員として、又、2004 年に米子市で開催された「日韓技術士会」における実行委員の一人として、お互いに協力し合ってきた間柄でした。そんな方からの依頼であり、真剣に検討すべき事柄でありました。

又、社会の窓口が少しずつ縮小していくシルバー世代の私にとって、存在価値を認めていただいているお言葉であり、突然心に火がつき、ポジティブな気持ちが湧いてきました。私はすぐ会社に帰り、幹部の方に経過を説明し、自宅に帰って妻とも相談したところ、「望まれるうちが華よ」と背中を押してくれましたので、期待に応えられるのか一抹の不安を感じながらも、要望に応える旨返事をし、現在株式会社ワープスで働かせて頂いております。

2. 資格試験への新たな挑戦

突然の経緯で、ワープスにお世話になっておりますが、官公庁への名刺配り等をこなしながらも、それ以外に会社のためになにかできることは無いかと日々考えていました。入社 1 ヶ月経過した頃、若手社員が技術士・RCCM 試験等建

設コンサルタントに必要な資格について、幹部と相談しながら当年度の受験目標を決めていました。私も今までお世話になった 2 つの企業・団体で、技術士・RCCM 受験勉強会や技術士模擬面接等色々行ってきました。

ワープスには若手技術者育成に長年尽力され、日本技術士会から表彰された方もおられるので、受験の支援以外にできることは無いかなと考えたとき、自分自身が資格試験を受験することもありなのかと思うようになりました。

しかし、最近固有名詞が言葉としてすぐに出てこないとか、記憶力・体力の低下等シルバー世代特有の老化現象を感じるようになっており、決断に当り内心悶々としていました。

そんな時、昨今有名な医師「和田秀樹」氏の著書「80 歳の壁」において、「働き続け、頭を使い体を動かす方が、脳や足腰の老化が遅れる」という記述がありました。もし合格すれば会社から喜んで頂けるし、受験勉強頑張れば認知症もときにも良い効果が現れるかもしれない、ということを確認しました。

このため、清水の舞台から飛び降りるがごとの思いで、新たな挑戦をすることを心に決めました。

そして、5 月頃ある試験を受験する旨幹部の方に報告したところ、とても喜んでおられましたが、「あまり無理をされないように」との暖かいお言葉も頂きました。

ちなみに、その試験を A 試験としましょう。建設コンサルタントの中堅技術者の方においては、所有することがほぼ当たり前で、所有していなければ仕事に支障がでるやもしれないという位置付けのものです。

3. 合格までの長い道のり

かつて、私は技術士や RCCM 試験の受験勉強会を行っていたので、A 試験の過去問等をみると、そう難しくないのかも軽く考えていました。若い頃にはスイスイ解けていたであろう問題です。しかし、現在はシルバー世代です。5 月の中旬頃から毎晩 1 時間くらい机に向かうようになりました。

7 月～8 月に入ると気温が高くなり、晩酌に 250 ml の缶ビールを飲むのが楽しみの一つですが、それを絶っての勉強はとても厳しいものです。

白書や技術用語をネットで履修し、論文については、比較的自信もありましたが、記憶力等低下しているため、何度もペンで書いたり、論文の骨格を整理し、脳のレスポンスを良くするよう努めました。

十分準備したつもりでしたが、1 回目不覚にも不合格の通知が届きました。何が原因なのか全く心当たりがなく、次の対策を検討する術も無く、又、会社の方々へ合わず顔も無く、ショックで心折れそうでした。

それでも、気を取り直して 2 回目に挑戦しましたが、またもや不合格でした。やはり老いには勝てないのかな、シルバー世代なので無理をせず諦めようかなと一瞬脳裏をよぎったこともありました。自分の力不足というか勉強不足を棚に上げ、逃げ道を考えている自分が情けなくなることもありました。

しかし、このままでは技術士の名がすたと 3 回目の挑戦を試みました。2024 年の夏は、今までに無い猛暑が続きましたが、毎晩、1 時間ほど書斎のクーラーをつけ必死に頑張りました。その結果、2025 年 3 月初旬に待望の合格通知、中旬に合格証が届きました。

今まで、各種試験に合格しましたが、いずれも 60 歳以前に合格したもので、シルバー世代となつてからの合格に、言い知れない充実感と安堵感に包まれました。名誉挽回出来たことがとてもうれしくて、自分へのお祝いに「晴れ

風」という缶ビールを 1 本買い、晩酌としていただきました。普段は 250 ml なのですが、当日は幸福な気持ちに包まれ 350 ml 飲めました。

4. 新たな生き様を与えて頂いた幸せ

私の気力・体力の範囲内で働けるような職場環境を与えて頂き、更に社員の方々は皆温かくて、優しくフレンドリーに接して頂いています。現在までいろんなところで働かせて頂いておりますし、又、地域の役職も NPO 法人・多面的機能支払い組織・お寺等若干多めに引受けて、それなりに地域貢献してきたつもりです。

シルバー世代の生き方は、十人十色でそれぞれですが、松嶋という存在価値を認めて頂き、それなりに働かせて頂く、社会との繋がりを持たせて頂くことは、適度の緊張と生きがいを与えて頂き、「生かされている」というこの上ない幸せを日々感じております。

5. 亀の恩返し

私の人生を振り返ると、順風満帆ということでも無く、山有り、谷有り、つまずいて転んだりもし、ゆっくりと歩む亀のごとくでありました。

そんな私であっても、世の中から必要であると認められることがうれしく、第二の人生においても、「義理人情・恩返し」ということに心がけて頑張ってきました。とても楽しく働かせて頂いている会社の皆様のために、何か恩返しをしなければという思いは常に持っており、その一つがようやく実現しました。

しかし、これで全てかなった訳ではなく、未だ多くのことを成し遂げなければならないでしょう。思いがけなく与えて頂いた幸せな人生の最終章を、ポジティブにそして感謝の気持ちいっぱい生きています。

これからも、少しずつ一歩・一歩歩んでいくべく、「頑張れシルバーエイジ」と、自分に向かって叫んでいる今日この頃であります。



各種資格試験に合格された株式会社ワース若手社員との記念撮影

2025年春